

早明浦ダム再生事業環境モニタリング委員会（第3回） 議事要旨

開催日時 令和6年10月1日(火) 14:00～16:00

開催場所 早明浦ダム・高知分水管理所（ふれあいホール）

出席委員

○：委員長

氏名	所属	備考
石川 和男	松山東雲女子大学 名誉教授	
石川 慎吾	高知大学 名誉教授	
一色 健司	高知県立大学 名誉教授	
河口 洋一	徳島大学大学院社会産業理工学研究部 准教授	
○ 笹原 克夫	高知大学教育研究部自然科学系 教授	

(敬称略。五十音順)

議事要旨

1) 前回委員会における委員指摘事項とその対応

第2回委員会（令和5年8月24日開催）時の委員指摘事項に対する対応を説明し、了承された。

<委員からの意見等>

- ・河川水辺の国勢調査の項目には付着藻類がないため、ダムに近い調査地点において、可能であれば付着藻類の調査も実施した方が良い。
- ・何か問題が起きた時の臨時的生物相の調査は、調査の項目や実施体制について、検討しておく必要がある。

2) 事業の進捗状況

再生事業の概要及び工程、進捗状況、令和6年度の工事実施内容を説明した。

3) 環境モニタリング結果

環境モニタリング結果について説明した。モニタリング結果については、希少猛禽類に係るマスキングの方針についても確認し、了承された。

<委員からの意見等>

【大気質・騒音・振動】

- ・騒音計を交換した7月29日以降に測定値が下がった点は、検定を受けた装置でこのような誤差が出ることは考えられないので、原因の究明をお願いしたい。また、本来は交換時に確認する必要がある。
- ・上記については、委員会資料の公開前にその対応について検討し、委員長に相談すること。また原因については、解明した際に、委員に情報提供すること。

追加：委員会後持ち回り審議

- ・騒音レベルの低下について、機器不良が原因であることと今後の対応を説明し、了承された。

【水質】

- ・降雨が多かった時の濁水が継続することはないことはデータからわかるが、工事前と比べて工事中の濁水の量や継続時間が増えたかどうかというのは、工事開始前のデータと比較しない限り確認できないと思う。濁った水の影響を評価できるのは濁度のデータだけで、濁度の大きさと継続時間は、底層に与える影響が非常に大きいため、重視する必要がある。
- ・水質の当初予測結果が間違いなかったかどうか。予測結果と比較して確認することは非常に重要なため、お願いしたい。
- ・水質の基準、濁水評価基準というのがわかりにくい。濁水評価基準の書き方、基準をどう説明するのかというところは、次回ご提示いただきたい。
- ・濁水処理施設の水質は、あくまで現場で処理をした水の水質の管理のことであって、それに対して下流河川は河川の水質に関する議論なので、きちんと書き分けておく必要がある。また、濁度が環境基準を超えるのは、大雨が降った時には常に起こる。一般の人に誤解がないように説明をする必要がある。

【動物・生態系（希少猛禽類）】

- ・希少猛禽類は3科8種が確認されており、現地調査がマニュアルに沿って適正になされた結果として、この地域の鳥の実態が正確に把握されている。これだけの種類がここに生息しているということは、自然環境の豊かさの指標となっている。今回の結果を見る限りでは、工事の影響は今のところはほとんどないであろうと評価できる。
- ・希少猛禽類の営巣地は毎年同じところではないため、モニタリングをしながら繁殖指標行動をしっかりと把握し、何かあった場合には専門家の意見を聞いて順応的に対応をしていく必要がある。

【植物】

- ・ユキモチソウ、シランについては生残率が高く、保全措置が非常にうまくいっている。シランはすでにたくさんあるが、ユキモチソウに関しては周辺で増えてくる可能性があるため、それもモニタリングをお願いしたい。
- ・特定外来植物は、今後、土砂を盛り上げている谷に入ってくる可能性があるため、注意しておくこと。
- ・保全措置がうまくいかなかったゴショイチゴについて、周辺でも減少傾向にある。谷を埋め立てた跡地に植えて、保全を地域の人たちが担ってくれるようなシステムができると良い。なお、ゴショイチゴは発芽特性等がわかっておらず、挿し木も難しいため、栽培が難しいという課題がある。

【人と自然との触れ合いの活動の場】

- ・早明浦ダムの周りは本当に環境が良いため、皆さんに親しんでいただいて、利用していただけたらいいと思う。イベントだけではなくて、遊歩道を整備して、春夏秋冬、いつ行っても楽しい、一年中楽しめるような環境ができるといい。

- ・インフラツーリズムは、早明浦ダム単独でやっても仕方がない。モンベル等の複数のアクターがこの地域で環境に親しむ活動を連携して取り組んでいただくのがいいと思う。そもそも早明浦ダムというのが日本の資産なので、工事中だけでなく、再生事業が終わった後も含め、国土交通省とも連携して早明浦ダムを売り出していただけるといいと思う。

【環境巡視】

- ・よく環境巡視をして、報告もされていると思う。このような指摘事項と対応の記録はできれば公表できるようなかたちにしてほしい。
- ・PFAS（ペルフルオロアルキル化合物及びポリフルオロアルキル化合物）について、厚生労働省が2020年に暫定基準値（50ng/L以下）を公表しており、早明浦ダムでも一度調べていただければと思う。

【その他】

- ・残土のところをこれからどうするかについて、地域の方だけでなく、若い人にも入ってもらえるといいと思う。
- ・残土の埋め立て地や裸地は、今後整備して、環境を創生していく必要がある。その際には、委員会やワークショップなど、地元の人のみならず、専門家も含めたもう少し大きな形で検討した方が良いものが生まれることが多いと思う。
- ・早明浦ダムの魅力やポイントをリーフレット等で公開して、小学校や中学校に配布して集客する。一般の方には、旅行会社に理解をしてもらって、ここの良さを知っていただき、早明浦ダムツアー等を計画していただく。いろんな方法があると思うが、本当に素晴らしいものがあるので、発信されたら良いと思う。

5) 今後の予定

再生事業の工事及びモニタリング調査の実施時期、環境モニタリング委員会の開催時期について説明し、了承された。

以 上